

## 論文審査の結果の要旨

平成 31 年 2 月 17 日

申請者： 胡 小春

論文題目： 中国の大学ビジネス日本語教育における初・中上級教育の内容の再検討について  
－『標準商務基礎日語』（第 1 冊～第 4 冊）を資料として－

本提出論文は、特に中国の大学日本語教育の中心的位置を占めるほど急速に普及してきているにもかかわらず、これまで実証研究の対象とされることが少なかった「ビジネス日本語教育」の領域で、特定の教科書を取り上げ、この教科書の内容分析とその教科書の利用者である教師と学習者の使用実態の調査から、当該教科書の改善策の提出及びビジネス日本語教育の教科書のあり方を論じた実証研究である。

先行研究では、ビジネス日本語教育に特化した教科書開発の必要性や言語の 4 技能に加えて異文化間コミュニケーション能力の養成の重要性などが指摘されてきた。本研究が対象とした『標準商務基礎日語』は初級からビジネスに特化した教科書として中国において市販されている唯一のビジネス日本語の教科書である。まず、この教科書の開発方針とシラバス、教室活動、及び到達目標として設定されている CDS の関連を詳細に検討した結果、教授法に問題があることを明らかにした。次に、この教科書を使用している教師を対象として、使用実態をアンケート調査により調べた。その結果、教科書の内容分析において明らかになった教授法上の問題点が確認された。次に、この教科書を使用した学習者について、到達目標として設定されている CDS 及び、標準テストとして中国で普及している CDS を使って調査を行った。この二つの結果を比較したところ、この教科書を使用している学習者は標準テストの方が、総じて平均点が高いことが分かった。つまり、『標準商務基礎日語』で学習した学習者の熟達度が高いことが示されたと言える。ただし、読む・書く領域と比べると聴く・話す領域の CDS は低く従来の問題点が改善されていないことも確認された。以上を踏まえて、教授法上の改善を中心に当該教科書の改訂に向けて提案を行った。

本研究が採用した教科書分析を中心とするアプローチはビジネス日本語教科書の改善を実証的に進めことを可能にする点で意義があると考えられる。

平成 31 年 2 月 15 日(金)、東京紀尾井町キャンパスで実施した口述審査会においては、本研究の要点を的確に提示し、審査委員からの質問についても丁寧に自身の考えを述べた。

提出論文も口述審査も満足すべきものであり、博士の学位に値するものと判断して合格とした。

主査： 人文科学研究科 岡崎 眸

副査： 人文科学研究科 川口 義一

副査： 人文科学研究科 林 千賀

副査： 大連外国語大学 陳 岩

副査： 元城西国際大学特任教授 高見澤 孟